卵管卵巣膿瘍に対するCTガイド下ドレナージの臨床成績に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2026年10月20日　～　2030年 12月 31日

〔研究課題〕 卵管卵巣膿瘍に対するCTガイド下ドレナージの臨床成績：後ろ向き研究

〔研究目的〕

本研究は、卵管卵巣膿瘍（お腹の中に膿がたまる病気）に対し、当院で行った「CTガイド下ドレナージ」という治療の有効性と安全性を確認することを目的としています。

この病気は将来の妊娠に影響を及ぼすことがありますが、従来の手術に代わる体への負担が少ない治療法として、CTで正確に確認しながら膿を出す本手法が注目されています。しかし、国内における安全性や将来の妊娠への影響に関する詳しい報告はまだ多くありません。

そのため、過去の診療記録を振り返って治療成績や経過を詳しく調査し、この治療法の有効性と安全性を明らかにすることで、将来のより良い治療の確立に役立てます。

〔研究意義〕 抗菌薬抵抗性の卵管卵巣膿瘍に対し、将来の妊娠の可能性を温存し得る最適な低侵襲治療戦略を構築できる可能性があると考えます。

〔対象・研究方法〕 2022年1月1日から2026年7月31日までに当院で卵管卵巣膿瘍に対してCTガイド下経皮的ドレナージ治療を受けた患者様につき、診療録に記載されている年齢、病歴、処置の内容、治療の成績やその後の妊娠の経過などについて電子カルテから情報を取得して解析します。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部放射線科学講座

〔個人情報の取り扱い〕本研究で得られた個人情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、厳重に管理します。データ等は、帝京大学医学部放射線科学講座にある鍵のかかる保管庫で保管します。研究終了後には使用した情報は帝京大学臨床研究センターにて10年間保管の後に廃棄します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。本研究についてご希望があれば、他の患者様等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、問い合わせ先までお申し出ください。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：氏名　近藤 浩史　帝京大学医学部放射線科学講座　職名　教授
研究分担者：氏名　照沼 正樹　帝京大学大学院医学系研究科　職名　大学院生
住所：東京都板橋区加賀2-11-1　TEL：03-3964-1211（代表）